

生活介護事業所 奏楽

令和元年度 事業報告書

《令和元年度の経過と評価》

開所から一貫して、『みんなで笑顔あふれる職場をつくろう！』をテーマに掲げ、利用者一人ひとりが、よりよく生きること、(働くこと・余暇の充実)、QOL(生活の質)を高めることを目指してきた。そのための手段として日中活動種目(生産活動・余暇活動)を設定した。生産活動は、主な作業班に所属し、一人ひとりの能力に応じて作業の分解、治具などを工夫しやりがいや能力の向上に務めた。また現状に満足せず、さらなるステップアップを目的として、ジョブローテーションを掲げ実施することが出来た。職員が毎日の振り返りや、毎月の班会議、支援会議、また職員会議等を通して、利用者一人ひとりがよりよく生きるためにはどのような支援をする必要があるかが考える機会を設けた。今年度、新卒職員1名が入職し支援体制が整ってきた半面で、『自分がやらねば』から『誰かがやってくれる』と言う雰囲気も見られた。今年度は、新たに第三者評価の受審を行なった。客観的な視点から事業所の強みと弱みを評価されたのは新たな気付きもあり有益であった。また、全職員が自己評価に参加し事業運営に携わるきっかけ作りを行なうことも出来た。事業運営については年度途中で1名、年度末に新規利用契約者2名が加わり契約者数が25名となった。来年度4月には新たに新規利用者1名が加わる予定であるが安定的な運営のために新規利用者の確保は継続課題である。引き続き、適性を考慮しながら積極的に受け入れを進めていく必要がある。組織作りに関して、中・長期的視点で人材育成をすすめた。法人内の他事業所と連携・協力して新卒職員を対象にしたメンター制度や、入職3年目までの職員を対象にしたOJTサポート研修などを行い支援体制づくりを進めることが出来た。また、月2回の管理者会議の実施により、事業所間の協力体制が出来てきた。しかし、月ごとの業務確認が主であり事業運営に関して、もっと踏み込んでいく必要を感じられた。若手職員については、業務の進め方、時間の使い方など、働き方についてのアドバイスに力を入れた。地域との関りについては、愛知大学の学生が来所し2度にわたるワークショップを開催した。喫茶店舗での新メニューや、メニュー表のアイデアをもらいながら障害当事者や、障害福祉事業所への理解を深めるきっかけ作りを行なった。

【喫茶班(Café奏)】は、年4回の定期イベントの開催、新メニューや年間を通して認知度が拡がり定期の顧客も増えている。LINE公式アカウントやブログを用いて、店舗の宣伝のみならず、利用者の活動状況も発信し障害理解にも努めた。利用者も準備、片付け、接客等、各方面で力がつき、メニュー数も増えてきた。課題であった利用者にわかりやすいオペレーションについても、写真やホワイトボードを用いるなど工夫が見られた。ドリンク作り等に担当制を導入し、多くの利用者に関われるような環境設定を行なった。客商売であるため、閑散時の作業設定として新たに柿の葉茶や、乾燥野菜などの計量、袋詰め委託作業も導入した。作業の切替えが困難な利用者には、タイマーを使用しスムーズな切替えを心掛けた。

【焼き菓子班（OYATU 工房という）】は、店舗営業時間内は喫茶班と一体的に運営されお楽しみパンや、ピザパン、手作り五平餅等を提供している。季節に合わせたオリジナルギフト商品も予算に合わせて企画している。楽²班より提供を受けた自然栽培の野菜を用いた商品も開発した。特にサツマイモを用いた、シフォンケーキ、スイートポテト、サツマイモスティック等は好評を得た。地域の店舗、コンビニ等でも販売展開をしているが、喫茶メニューの負担も増えたこともあり、販路の開拓は十分に行うことが出来なかった。購入しやすい価格設定もあり個人での大量注文も多く認知も広がってきたが、低価格のため売り上げ増には至らなかった。バザーなど外部での販売についても可能な限り利用者も参加し充実感を得ることが出来たが、年度末には、コロナウイルス拡大の影響もあり販路が減り売り上げが減少してしまった。利用者の日常の作業設定として、クッキーやパンづくり、パッケージング、接客等、利用者一人ひとりの得意を生かした体制作りを行ない褒め励ましの支援に努めた。

【軽作業班（楽²）】では農作業（自然栽培）を軸とした組立てを行い、全国的な組織である自然栽培パーティーに参加し、作物の栽培方法、販路の共有など情報交換を行い事業の拡大に貢献している。作物については今まで模索してきた中で、ブルーベリーとサツマイモを主要作物にすえて事業展開を行なえる目途が立った。

ブルーベリーは、多くは生食での販売で完結できた。加工用では喫茶店舗でのスムージー、スカッシュでの提供を行なった。サツマイモは、試行錯誤の中で干し芋としての加工方法が確立し大量生産をすることが可能になった。販路についても開拓をすすめ、栽培、加工、販売の6次化産業を行なう体制が整った。委託作業はパクチーの選別、袋詰め作業は工程の細分化や治具の工夫により、一人ひとりの作業能力が大幅に向上した。開所当初から行っていた箱折りの委託作業は、コロナウイルスの影響もあり安定的に供給されなくなったこともあり終了した。代替の委託作業として野菜の計量、袋詰めを行なう方向で準備を進めている。その他、季節に合わせた野菜を栽培し、店舗での提供と共に店頭販売も行なった。

工賃は、月額7,000円（一律支給：日給350円）に上乗せすることができなかったが、特別工賃に10,000円を上乗せすることが出来た。次年度は、月額工賃アップを行なっていきたい。

生産活動とのバランスをとりながら、日中活動としてクラブ活動（絵画、カラオケ、書道、リズム体操、太鼓、茶道、ダンス、さをり）を設定し、多様な活動の中から自分で選択できるようにした。また、日帰り旅行や、活動日の設定、豊橋祭りや、いきいきフェスタへの参加も行った。次年度も、メリハリを持った支援を行いたい。

次年度の重点課題として、事業運営の強化、利用者サービスの拡充、人材育成、を掲げ、利用者、職員、家族等、関係者も含めて、笑顔あふれる職場づくりをすすめ、選ばれる事業を目指していく。

《重点課題に対する取り組み》

1. 運営基盤の強化（運営・管理体制、サービス管理）

職員体制については、入れ替わりのあった昨年度に比べると充実してきた。新たに新卒職員を加え年齢バランスもとれてきた。1F（喫茶&焼き菓子班）での職員が4名固定となり、不十分だった支援の強化に向けた体制作りが出来てきた。楽々班については、職員的人数的には充実してきたが、他事業所との兼務職員や、収入制限のある職員がおり曜日により、手厚いときと薄いときの差がみられることがあった。また、経験不足等により、支援力が不十分な場面が見られた。毎日の反省会の際に、どうすればより良い支援ができたかと考える機会を設けた。

利用者数は年度末に、2名増えて25名となったが、定員数（30名）は満たせていない。今後も、定員充足に向けた措置を計り障害福祉サービス事業収入を増やす努力、工夫を継続し、安定した事業運営ができるようにしていきたい。今年度より、重度支援加算の個別加算を取得し収入増となった。

事業所間の連携については、月2回の管理者会議にて情報共有を行なった。多機能型事業所童里夢とは、同じ日中活動事業所として送迎等協力する場面も多く、協力体制は整えられている。地域生活支援センターすたあとでは、自立生活訓練（短期入所）を中心に協力を行なっている。共同生活援助ぱあとなどについても、必要に応じて職員が応援するなど協力体制は出来てきた。

今年度、初めて第三者評価を受審し、事業所、法人の強み、弱みを客観的に見る機会が与えられた。年2回の職員個人面談においては、不安、疑問など聞くなど良い時間が持てたが、個々のステップアップについては消化不良な面も見られた。

2. 利用者サービスの拡充

法人理念のもと、どんなに重い障害をもっている、立派な生産者と認めあえるように障害特性に配慮しながら生産活動を中心とした事業運営に努めた。

お互いを認めあう活動として、毎日の帰りの会の際に『いいねタイム』をもち、利用者の良かった行動などを互いに褒め合う時間を作った。生産活動では、作業工程の細分化を進めて重い障害を持った方でも関わられるような取り組みを進めることが出来た。しかし、一部の利用者に対しては、支援方法について試行錯誤する中で日々安定するような環境設定が出来ないこともあった。

6月から給食費の自己負担額が、280円から350円となったため工賃の増額をめざしたが、ボーナスの増額（10,000円）のみにとどまってしまった。

グループ活動日（2回）や、日帰り旅行については、行先や内容などはいくつか候補を上げ、写真等でわかりやすく示したうえで利用者自治会にて決定し、本人主体を心掛けた。バザーなどの外部販売にできる限り参加し、自分たちの作ったものを対面で売る喜びを育む機会を多く設けた。また、事業所でのイベントは、大小合わせて4回行った。

（5回計画し1回はコロナウイルス対策として中止）利用者の顔が見える地域に向けて開かれた事業所作りを心掛けた。地域への認知度は上がり、喫茶への来客数、売上も増えている。イベントでは、利用者が販売員として接客を体験する傍ら、お客さんとしても楽しむ機会を設定した。生産活動の内容については、軽作業班（楽²）では、開所当初

から行っていた箱折り作業を終了し、農作業の強化に努めた。農作業については、干し芋の製造が軌道に乗り、生産、加工、販売と6次産業化の目途が立った。喫茶班（かなで）については、メニューの改定や店舗横に花壇を整備する等、集客に努め工賃向上に向けた工夫を行なうことが出来た。焼菓子班（といろ）は、楽²で収穫したさつまいものB品を利用し、シフォンケーキ、スイートポテト、プリッツなど新商品を多く製造、販売し好評を得た。本人にあった治具、スケジュールなどについては、工夫が足りず不十分な面も見られた。

③人材育成/支援力の向上

日々の支援については、朝夕の反省会や未参加者のための引継ぎファイル、グループメールの発信を頻繁に行い情報共有に努めた。また、支援ソフト『ほのぼの』の導入により、他事業所との共有も簡単になった。研修については、事業所としてのニーズや、個々の職員の課題を考えながら全職員が最低一度は外部研修に参加できるように設定した。全職員と個人面談を行ない、あるべき姿、お願いしたいこと、なりたい自分、個別の事情について確認できた。利用者支援の現場において、危険予知が不足していると感じる場面が見られ日々の反省会や支援会議を用いて場面の共有、改善に努めた。

《 地域活動：事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日／人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
7/24	豊橋商業高校	1	11/28	中部中学校	2
8/20	豊橋商業高校	2	11/29	東陵中学校	2
11/13-15	石巻中学校	1	12/4	牟呂中学校	2
11/20	東陽中学校	2	12/5	豊岡中学校	2

《 事業所外生活支援：自立（律）生活訓練（宿泊体験）の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	3	4	3	2	1	4	2	3	4	4	4	2
年間延べ人数：												36人

《 防災計画・安全管理：防災訓練、防災委員会活動 》

防災訓練・学習 実施日			
4/18	防災学習（地震について）	8/17	防災訓練（地震想定）
5/31	防災学習（火災想定）	9/20	防災訓練（地震想定）
6/20	防災学習（台風について）	11/22	防災訓練（火災想定）
		3/14	総合防災訓練 引き取り訓練（地震想定）

防災委員会活動	
4/19	今年度年間計画について
6/20	防災食（備蓄品）について・童里夢HUGの実践
8/17	防災食について・BCPについて・ 引き取り訓練について・各事業所災害想定シミュレーションについて
10/17	BCPの個人情報のほのぼのの入力について、感染症対策について 引き取り訓練について・オクレンジャー送受信訓練について
12/19	感染症対策マニュアルについて・防災個人カードの更新 総合防災訓練について
2/20	総合防災訓練、法人全体研修について 感染症マニュアルの案の完成・防災委員会の来年度の目標について

《 職員研修 》

月	内容	対象者
4月	フレッシュマンスキルアップ1日研修	新人職員
5月	障害福祉サービス事業所等職員初級研修	新人職員
6月	新規採用者研修 コクヨ整理術セミナー 防災セミナー&公演術 自然栽培パーティー東海ブロック勉強会 OJTサポート研修 ロワーM研修 新事業について考える	新人職員 管理者 中堅職員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 法人全体
7月	農福連携 現地視察研修会 東三セルフ事務員研修 全国知的障害関係施設長等会議 第2回就職支援スキルアップ連絡会	管理者、生活支援員 事務員 管理者 管理者
8月	権利擁護セミナー 接客マナーと魅力あるPOP作成 他地域セルフ見学研修会 OJTサポート研修 安全運転講習	生活支援員 管理者 生活支援員 生活支援員 生活支援員
9月	権利擁護セミナー 施設職員口腔ケア研修会 ロワーM研修 新事業について考える	生活支援員 看護師 生活支援員 法人全体
10月	権利擁護セミナー 第2回会員総会および管理者セミナー 現場で働くあなたのための研修会 働き方改革・企業防災	生活支援員 管理者 生活支援員 生活支援員
11月	現場で働くあなたのための研修会 リーダー職員研修 豊橋市障害者虐待防止と権利擁護の講演会 販売マナーの向上と魅力あるPOP作成術 サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者更新研修 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 上級管理者研修会 東三セルフ事務員研修 OJTサポート研修	生活支援員 中堅職員 生活支援員 生活支援員 サビ管 管理者 事務員 生活支援員
12月	ロワーM研修 権利擁護研修	生活支援員 法人全体
1月		
2月	職場研修担当者研修会 東三セルフ共同研修会 障害の理解と個別支援計画 OJTサポート研修	管理者 生活支援員 生活支援員 生活支援員
3月		

《 生産活動 売上金額 》

月	奏+という 売上金額 (円)	楽 2 売上金額 (円)	計 (円)
4	326,930	129,216	456,146
5	328,094	103,850	431,944
6	401,722	103,896	505,618
7	378,939	314,537	693,476
8	322,762	407,517	730,279
9	347,469	142,917	490,386
10	357,637	151,582	509,219
11	545,034	203,514	748,548
12	327,684	163,738	491,422
1	288,335	281,530	569,865
2	362,080	367,736	729,816
3	348,709	209,215	557,924
計	4,335,395	2,579,248	6,914,643

《原材料費率=原材料費／売上金額》

計	1,149,159	267,301	1,416,460
比率	26.5%	10.4%	20.5%

【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	合計
男性	2	5	7	1				15
女性	2	4	4					10
合計	4	9	11	1				25

※平均障害支援区分：

【年齢別人数】

生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	2	4	1	3	4	1	15
女性	0	2	0	2	6	0	10
合計	2	6	1	5	10	1	25

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	33歳3ヶ月	18歳1ヶ月	55歳0ヶ月
女性	38歳7ヶ月	22歳8ヶ月	48歳3ヶ月